

「食」の物語

園長 篠澤 恵理

今年度も、幼稚園では様々な夏野菜を栽培し、一雨毎に大きく生長しています。年長もり組は、何を植えるか考えを出し合い、数多く出た意見の中から、ナス、スイカ、キュウリ、枝豆、オクラを選んで親子で植えました。毎日登園すると、保護者の方々も一緒に水をあげたり眺めたりしているので、子どもたちの興味や関心が持続しています。

子どもたちは、初めてキュウリを収穫した時に、「トゲトゲだ。」と、驚いていました。1年前の同じ時期には、苦手で食べられなかった子も、今年は友達が美味しそうに食べている様子につられて食べることができました。嫌いだと思い込んでいたことも、友達と一緒にという雰囲気の中で食べてみると、「美味しかった。」とのこと。「おかわりができる。」と喜んでいました。

先日は、管理栄養士の石塚理子先生による栄養講話で、「我が家の味」についてのお話がありました。自分が幼い頃から食べている味や食材だけでなく、盛り付け方などでも、「これぞ我が家の食事」と思えるような、心の中の「食」の物語があることは、生きてく上での支えにもなると感じました。

我が家を振り返ってみると、息子たちが「家の味」と感じているものがあつたかどうかは不明ですが、私自身は、息子たちと一緒に餃子やハンバーグを作ったことなど、今でもその当時のことが思い浮かび、心が温かくなります。食事の味だけでなく、一緒に作ったり食べたりしたときの笑顔や、食事を囲んだ時の雰囲気など、食べる幸せを感じる物語は、日々積み重ねられる宝だと感じています。

幼稚園では、子どもたちがお弁当の時間を楽しみにしています。弁当箱の蓋を開けると、家族に会えるような喜びもあるようです。年少りす組は、幼稚園で育てたピーマンを弁当の横に添えて食べました。「もっとおかわりがしたい。」という声があがり、次の収穫が楽しみになりました。幼稚園では、グレープフルーツの収穫に続いて、アンズやブドウなどの果実も豊かに実っています。今後も「美味しい」「嬉しい」「楽しい」と感じるような「食」の物語を積み重ねてまいります。



えがおにここにこコーナー



年長もり組は、自分たちで準備をしてお店屋さんを開店しました。お客さんには、丁寧な対応をしていて感心しました。友達とやり取りをすることが楽しい毎日です。

年少りす組では、新聞紙を破いて遊びました。新聞紙の海の中に寝転んで隠れては、友達を驚かす遊びを面白がっていました。今後も幼稚園では、子どもたちが夢中になって遊ぶ仕掛けをつくり、心豊かな環境を整えてまいります。

赤羽北桜高校の保育実習では、高校生が年8回来園して交流します。子どもたちは、絵本も読んでもらい、とても嬉しそうでした。また、預かり保育などのボランティアとしても協力していただきます。1年を通して心を通わせていくのが楽しみです。



【もり組：お店屋さんごっこ】



【りす組：新聞紙で遊ぼう】



【赤羽北桜高校との交流】